

血栓症

英語名：Thrombosis

同義語：血栓、血栓塞栓症、塞栓症、梗塞
(脳梗塞、心筋梗塞、肺塞栓、深部静脈血栓症)

A. 患者の皆様へ



ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるというものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

血のかたまり（けっせん血栓）が血管に突然つまることによって起きる「けっせんしょう血栓症」は、医薬品によって引き起こされる場合もあります。

何らかのお薬を服用していて、次のような症状がみられた場合には、放置せずに、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。

「手足のまひやしびれ」、「しゃべりにくい」、「胸の痛み」、「呼吸困難」、
「足の痛みを伴う腫れ」

1. けっせんしょう血栓症とは？

血栓症とは、血のかたまり（血栓）で血管が突然つまる病気です。どこの血管がつまるかによって、のうこうそく脳梗塞、しんきんこうそく心筋梗塞、はいそくせん肺塞栓、しんぶじょうみやく深部静脈

けっせんしょう

血栓症など病名が変わってきます。症状は、どこの血管がつまるかによって変わりますが、ほとんど何の前触れもなく突然発症することが共通した特徴です。脳梗塞では、「手足のまひやしびれ」、「しゃべりにくい」といった症状、心筋梗塞や肺塞栓では「胸の痛み」や「呼吸困難」、深部静脈血栓症では「足の痛みを伴う腫れ」がみられます。また、腎臓にできた血栓で腎不全になる場合もあります。

血栓症は低用量ピルなどの女性ホルモン剤や SERM(サーム)とよばれる骨粗鬆薬、副腎皮質ステロイド薬、止血剤、白血病治療薬などの副作用として知られていますが、これらの薬を内服していると特に手術（特に足の整形外科手術、産婦人科手術）を受けたり、血栓リスクが高い状態になることにより、さらに危険性が増します。そのため、これらの薬を内服していて、手術などを受ける際には医師などの医療スタッフに申告する必要があります。

2. 早期発見と早期対応のポイント

「手足のまひやしびれ」、「しゃべりにくい」、「胸の痛み」、「呼吸困難」、「足の急激な痛みや腫れ」といった症状が見られた場合で医薬品を服用している場合には、放置せずに、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。

突然発症することが多いため早期発見はなかなか難しいのですが、急激な病状の変化がみられた場合には、放置せずに、ただちに医師、薬剤師に連絡してください。なお、深部静脈血栓症では、足に出来た血栓が肺に飛んで肺塞栓に進行することがありますので、深部静脈血栓症と肺塞栓は連続的にみられることもあります。

(参考) エコノミークラス症候群：長時間同じ姿勢でいると深部静脈血栓症やそれに続発する肺塞栓が起こりやすいことが知られており、そのような血栓症をエコノミークラス症候群とよびます。飛行機に乗るとそのような状態に陥りやすいため、エコノミークラス症候群という名前がついていますが、長時間じっとしていることにより発症しやすくなる疾患であり、けしてエコノミークラスを含めた飛行機に乗った時だけにおこる疾患ではありません。近年では震災時の避難生活などでも高頻度に発症することが知られています。

※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、このホームページにリンクしている独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医療用医薬品 情報検索」から確認することができます。

<https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>

※ 独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく公的制度として、医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により入院治療が必要な程度の疾病等の健康被害について、医療費、医療手当、障害年金、遺族年金などの救済給付が行われる医薬品副作用被害救済制度があります。

(お問い合わせ先)

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 救済制度相談窓口

https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html

※電話：0120－149－931（フリーダイヤル）[月～金] 9時～17時（祝日・年末年始を除く）

